

教科等	授業改善の視点	児童の学習状況	改善の計画と評価の方法
国語	<p>①語彙を増やし、考えを交流する言語活動の充実【基礎的・基本的な学習の定着、主体的・対話的で深い学びのある授業】</p> <p>②ICT 機器を用いた課題把握と振り返りの充実【ICT 機器の活用】</p>	<p>①児童アンケート「授業中、集中して取り組んでいる」の肯定的回答が88%と9割を下回っている。とくに長い学習単元では、教材文の読み取りや書く活動などで自主的に取り組むことが難しい児童がいる。</p> <p>②児童アンケート「文章をすすんで書いている」の肯定的回答が87%と9割を下回っている。書くことに苦手意識のある児童が一定数いることから、意見や考えを書く活動で学習支援アプリを用い、内容の共有を行ってきた。</p>	<p>①教材文の内容理解と自主的な取組を促すために、単元の導入での語彙調べを行う。読み取りや書く活動では、ゴールが明確になるように担任が作成した例文を示したり、読み取った内容をノートや学習支援アプリで交流したりする。</p> <p>②短作文の活動において、書いた内容を交流する。書く活動では、取材の段階から学習支援アプリを用いてメモを作成し、構成・下書きなど継続的に活用する。また、共有やコメントを残すことにより自分の考えやまとめに生かし、活動内容を蓄積していく。</p>
社会	<p>①基礎的・基本的な学力の定着【基礎的・基本的な学習の定着、主体的・対話的で深い学びのある授業】</p> <p>②ICT 機器を用いた課題把握と考えの共有【ICT 機器の活用】</p>	<p>①意欲的に学ぶ児童が多いが、理解した事柄が定着しづらい。また、資料の数値を読み取ることはできるが、そこから考えたことや判断したことを説明したりまとめたりすることは苦手な児童が多い。</p> <p>②学習支援アプリを活用し、資料を見て課題を把握したりお互いの考えを共有したりする活動に児童は意欲的に取り組んでいた。資料から効率的に情報を読み取ることが課題である。</p>	<p>①授業のはじめに前回の学習内容を復習する。また、読み取った数値に対して、最大値・最小値の理由や変化の理由など考える視点を適宜示すようにする。</p> <p>②資料の提示、考えの記入としてICT 機器を活用する。資料の読み取る手順を確認してから読み取りに入るようにする。また、読み取ったこととそこから考えたことを分けて記述できるようにする。</p>
算数	<p>①「問題発見」「自力解決」「集団検討」「統一的・発展的な考え方」の学習過程を主体的に取り組めるような授業形態・内容・方法の工夫【基礎的・基本的な学習の定着、主体的・対話的で深い学びのある授業】</p> <p>②課題を把握し、数学的な見方・考え方に基づいた課題解決方法を理解できるような授業の充実【ICT 機器の活用】</p>	<p>①東京ベーシック・ドリル算数4年診断シートAにおいて、正答数7割以上の児童が4月実施で54%、6月実施で63%となっている。</p> <p>②6月実施の「学校評価 児童アンケート」において、「授業は分かりやすい」の質問項目に対して「とてもそう思う」回答が58%、「授業中、集中して取り組んでいる」の質問項目に対して「とてもそう思う」回答が61%となっている。</p>	<p>①授業において、単元の学習に関わる前年度までの学習内容や単元の前時までの学習内容を振り返る時間を確保し、より多くの児童が「自力解決」に主体的に取り組めるようにする。診断シートBおよびCの実施で、正答数7割以上の児童が70%を上回ることを目指す。</p> <p>②教師用デジタル教科書を用いて問題文や図をモニターに投影する。また、教科書付属の児童用デジタルコンテンツの活用を促し、動画の閲覧や図の操作等を通して、問題場面を把握しやすくする。12月実施予定の「学校評価 児童アンケート」の同項目において、「とてもそう思う」回答の向上を目指す。</p>
理科	<p>①問題解決の過程を通して、理科的な資質・能力の習得【基礎的・基本的な学習の定着、主体的・対話的で深い学びのある授業】</p> <p>②ICT 機器を用いた考えの共有【ICT 機器の活用】</p>	<p>①変化とその要因との関わりに気付くよう、条件を関係付けながら実験方法を確認した。種子の発芽や成長の条件については、条件を制御したらよいのか具体的に考えることが難しい児童も20%程いた。</p> <p>②児童は、技能的に学習支援アプリを使いこなすことができている。課題の把握や、結果の記録、振り返りに活用している。考えを深めるために児童同士の対話をより活発にできるようにすることが課題である。</p>	<p>①観察・実験ごとに、条件の違いや予想をノート等に書き込ませる。その後、それぞれの結果を書き入れることができるようにし、変化と要因の関わりを考えさせるようにする。</p> <p>②資料の提示、振り返りの記入としてICT 機器を活用する。実験の結果をまとめる時には、ICT 機器やノートから学習内容と個に応じた選択をできるようにし、考えを深める活動の機会を十分保証する。また、学習支援アプリを活用し、予想や考察を共有して自分の考えを深められるようにする。</p>
音楽	<p>①学ぶ楽しさを実感させる授業の充実【基礎的・基本的な学習の定着、主体的・対話的で深い学びのある授業】</p> <p>②興味・関心を高め、理解を深めるためのICT 機器の活用【ICT 機器の活用】</p>	<p>①アンケート項目「すすんで学習している」に対して肯定的な回答をした児童は91%で、その中でも「とてもそう思う」と答えた児童は4年生時から8ポイント改善している。</p> <p>②アンケート項目「授業は分かりやすい」に対して否定的な回答をした児童が4%いるが、4年生時から1ポイント改善している。器楽の技能の習熟に関して、一人ひとりの学習過程に応じた支援の充実が必要であると考えられる。</p>	<p>①感覚統合が促進されるような常時活動や、友達と関わり合う活動を取り入れ、相互意見交流や音楽表現を介した交流を通して、音楽表現を深めていく。録音や録画を活用して、演奏を振り返り、次の課題の見通しをもって主体的に活動できるようにする。</p> <p>②比較関連させる授業で、要素とその働きの視点から分析的に示し、考えを広げ、深めていくことができるようにする。ICT を活用し、思いや意図を視覚化できる教材教具を用いる。また、児童が自身の学習を評価し、自分自身で課題を選択、設定できるようにすることで、主体性</p>

			をもって技能の習熟を図るようにする。
図画 工作	①学ぶ楽しさを実感させる授業の充実【基礎的・基本的な学習の定着、主体的・対話的で深い学びのある授業】 ②振り返り活動の充実【ICT 機器の活用】	①校内実施の「1 学期授業アンケート」では、「授業中、すすんで学習している」という質問項目に対して「とてもそう思う」「そう思う」の肯定的な回答をした児童が 97%であった。この事からほとんどの児童が主体的に授業へ参加していると考えられる。 ②製作活動中や製作後に互いの作品を鑑賞し合い、よさを見付けたり自分の表現に生かしたりすることについて、まだ成長できる部分があると考える。	①針金や電動糸のこぎりなど、新しい材料や用具についての経験を充実させ、児童が表し方や材料を自ら考えたり決定したりすることができるようにすることで、「すすんで学習している」という質問項目に対して「とてもそう思う」の回答が 90%以上得られるようにしていく。 ②作品完成後だけでなく、製作活動中であっても互いの作品を鑑賞したり互いに相談し合ったりしながら問題解決ができるように授業を展開していく。また、学習用端末を使用して作品の共有を行い、学びを深めていけるようにする。単元末の児童の振り返りなどから授業者の授業改善を振り返る。
体育	①自己の課題に合わせた体育的活動の充実【基礎的・基本的な学習の定着、主体的・対話的で深い学びのある授業】 ②ICT 機器を用いた課題把握と振り返りの充実【ICT 機器の活用】	①校内実施の「学校評価児童アンケート」では、「授業中、すすんで学習している」という質問項目に対して肯定的な回答をした児童がほとんどであった一方で、「あまりそう思わない」「そう思わない」の否定的な回答が 7%ほどいた。少数ではあるが、進んで学習に取り組めていない児童が意欲的に取り組めるように工夫が必要である。 ②動きのポイントを理解していても、自己の課題を適切に把握したり、その後の運動に生かしたりすることができていない児童が多いため、自身の実態を把握することが必要である。	①運動することに苦手意識をもっている児童も意欲をもって取り組むことができるように、それぞれの運動領域の中でも <u>取り組みやすい技や動きをはじめに紹介したり、主運動につながる運動に取り組んだりする</u> 。また、ボール運動などの領域においては、 <u>ルールを簡易的にしたり柔軟なルールを考案したりしてすべての児童が取り組みやすい工夫をする</u> 。 ②運動のポイントを写真や動画で示すことに加え、ポイントと自己の動きを比較できるように、 <u>ICT 機器を活用し自分の動きを撮影して把握できるようにする</u> 。また、 <u>撮影した映像などを用いてポイントと照らし合わせながら振り返りを行う</u> 。
家庭	①主体的に自己を見つめ、生活に活かそうとする授業の充実【基礎的・基本的な学習の定着、主体的・対話的で深い学びのある授業】 ②ICT 機器を用いた、理解を深める授業の充実【ICT 機器の活用】	①校内実施の「学校評価児童アンケート」では、4つの質問項目に対して全て約 94%の児童が肯定的な回答であったが、否定的な回答が約 6%いた。生活に活かしていきたいという気持ちに繋がるような学びに取り組んでいきたい。 ②調理実習や裁縫において、動画を見て内容を理解することはできているが、それを実践するというになるとイメージ通りにいかないという児童の様子が見られた。	①技術面に関しては個人差があるため、早く作業が終わる児童と時間が必要な児童それぞれの対応が大切である。学校支援ボランティアと連携し、全員が「できた」と実感できる個に応じた指導をしていき、引き続き 9 割以上を継続できるようにする。 ②指導者の手元をテレビ画面に映したりお手本になる写真や動画を繰り返し確認したりするなど、さらに ICT 機器の活用をすすめる。 <u>振り返りの内容を蓄積して振り返りやすくすることで、自身の成長を感じ取れるようにする</u> 。
外国語 活動	①考える時間が確保された授業の実施【基礎的・基本的な学習の定着、主体的・対話的で深い学びのある授業】 ②ICT 機器を用いた言語外情報としての視覚教材の活用【ICT 機器の活用】	①アンケート項目「すすんで学習している」に対して肯定的な回答をした児童が 95%であり、ほとんどの児童が主体的に授業へ参加していると考えられる。 ②アンケート項目「集中して取り組んでいる」に対して肯定的な回答をした児童は 93%である。残りの 7%の児童の集中を切らすことなく、最後まで参加させることが課題である。	①互いの考えや気持ちを伝え合う言語活動を通して指導を行い、児童が <u>どういう意味なのか、考えながら英語を聞いたり、自分で考えて自分の思いに合わせて英語を発したりする機会を大切に授業を行う</u> 。 ②児童の理解促進のための言語外情報の視覚教材として ICT で絵や写真を提示し、活用する。また、動画教材を使うことで児童が集中して言語材料に慣れ親しみ続け、主体的に言語材料の意味内容を捉えて習得につながれるようにする。
道徳	①主体的に自己を見つめ、生活に活かそうとする授業の充実【基礎的・基本的な学習の定着、主体的・対話的で深い学びのある授業】 ②ICT 機器を用いた、自己の考えを深める授業の充実【ICT 機器の活用】	①資料から登場人物の気持ちに寄り添ったり場面から様子を想像したりすることはできるが、自己の生活に結び付けて今後に活かそうと考えることが難しい児童が多い。 ②自分の考えをもつことに時間を要したり、表現したりすることに難しさを感じている児童が多い。	①授業の導入や教師の説話で児童の身近にあるような話題や出来事を取り上げ、児童が自己の生活に結び付けて考えやすいように授業を工夫する。 ②学習支援アプリ等を用いて、書くことに苦手意識がある児童も自分の考えを表現しやすいうようにする。また、学習支援アプリを活用して <u>考えを共有する時間を設け、自己の考えを深める機会を増やす</u> 。

